

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
20	山下いづみ（19）	<p>1. 難民の受入れと今後について</p> <p>世界にはおよそ8230万人の難民がいます。母国での紛争や人権侵害からやむを得ず母国を追われ、逃げざるを得ない人々です。難民となる背景も様々で、突如として国を離れなければならない人たちから何世代にもわたって母国に帰れない人たちもいます。</p> <p>日本には難民として認定された人たちや、それ以外の在留資格を持った人たちが約1万人（政策等による難民受入れ2021年末現在）います。難民には1970年代のベトナム、ラオス、カンボジアでの紛争から逃れたインドシナ難民の人たちもいます。日本へ自分でたどり着き保護してほしいと申請し、結果を待つ人たちは約2万4000人おり、受入れ状況は2020年は47人で、日本の難民受入数は非常に少ないのが現状です。</p> <p>本市では、今年5月からロシアの軍事侵攻のためウクライナから避難してきた2人に、居住用に市営住宅を無償提供するなど支援を行っています。母国を逃れ他国へ来た人たちを守ること、支援することは一人一人の人権を守り、命を守ることで、非常に重要です。</p> <p>難民支援については、2018年からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が自治体との連携強化を目指したグローバルキャンペーン「難民を支える自治体ネットワーク」を実施しています。日本を含めた53か国・280の自治体（2022年5月現在）が参加しています。自治体による難民問題に対する行動や支援の表明を通じて、紛争や迫害により母国を追われた人たちに対する連帯を示す活動を促進して、難民の保護・支援によりインクルーシブな社会の実現を目指しています。</p> <p>そこで、以下3点について質問します。</p> <p>(1) 本市の難民の受入れ状況はいかがか。また、どのような支援を行っているのか。</p> <p>(2) 今後、難民の受入れについてどう取り組んでいくのか。</p> <p>(3) 「難民を支える自治体ネットワーク」に署名し、難民支援連携をしていってはどうか。</p> <p>2. 多様性を育む取組について</p> <p>誰もが自分を大切にできる未来をつくるためには、子供の頃から多様性を育むことが大切です。2018年内閣府が発表した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、「私は、自分自身に満足している」との問いに対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答が45.1%、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」との回答が54.9%であり、諸外国と比較して、日本の若者の自尊感情が低いことが指摘されています。</p> <p>富士市の子供の現状を見ると、令和元年に実施した富士市子どもの実態と意識に関するアンケート調査によると、自分のことが好きかという問いに、好きだと思っている割合が小学生で58%、中学生で47%、高校生で56.3%。自分が人から</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
20	山下いづみ（19）	<p>必要とされていると思うかの問いに、必要とされていると思っている割合が小学生で61.4%、中学生で51.1%、高校生で52.2%という結果が出ています。</p> <p>多様性の意味は頭で考えるのではなく、体験を通して理解をしていくのではないのでしょうか。1988年にドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案によって誕生し、これまでに世界50か国以上で開催され800万人以上、日本では23万人以上が体験した「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」があります。これは、視覚障害者とチームになって完全に光を遮断した暗闇の空間を探検し、発見と対話を楽しむプログラムです。日本では1998年に初開催されています。常設されているダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」や、各地の学校の教室などで工夫して、体験することができます。外国ではこのプログラムを体験した子供たちにより変化をもたらすことが認められており、様々な国で、学校教育の一環として体験する仕組みができています。日本で行った調査からも、プログラムを体験した子供たちの自己肯定感や自己有用感の向上、多様性や障害者に対する肯定的な意識の変化など、様々なよい変化が起きています。</p> <p>また、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」はチームビルディングやコミュニケーションを目的とした企業研修として今までに600社以上が導入しています。ダイアログの体験によって、人や社会への信頼感が生まれ、対人関係が向上することが明らかになっています。</p> <p>誰もが互いの違いを理解して、その個性が活かされる社会になっていくことを願い、以下2点について質問します。</p> <p>(1) 子供たちが多様性を育むためにどのようなことを行っているのか。</p> <p>(2) 「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を子供たちが体験できる機会をつくってはどうか。</p> <p>(3) 市の職員研修に取り入れるなど大人も体験できる機会をつくってはどうか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長